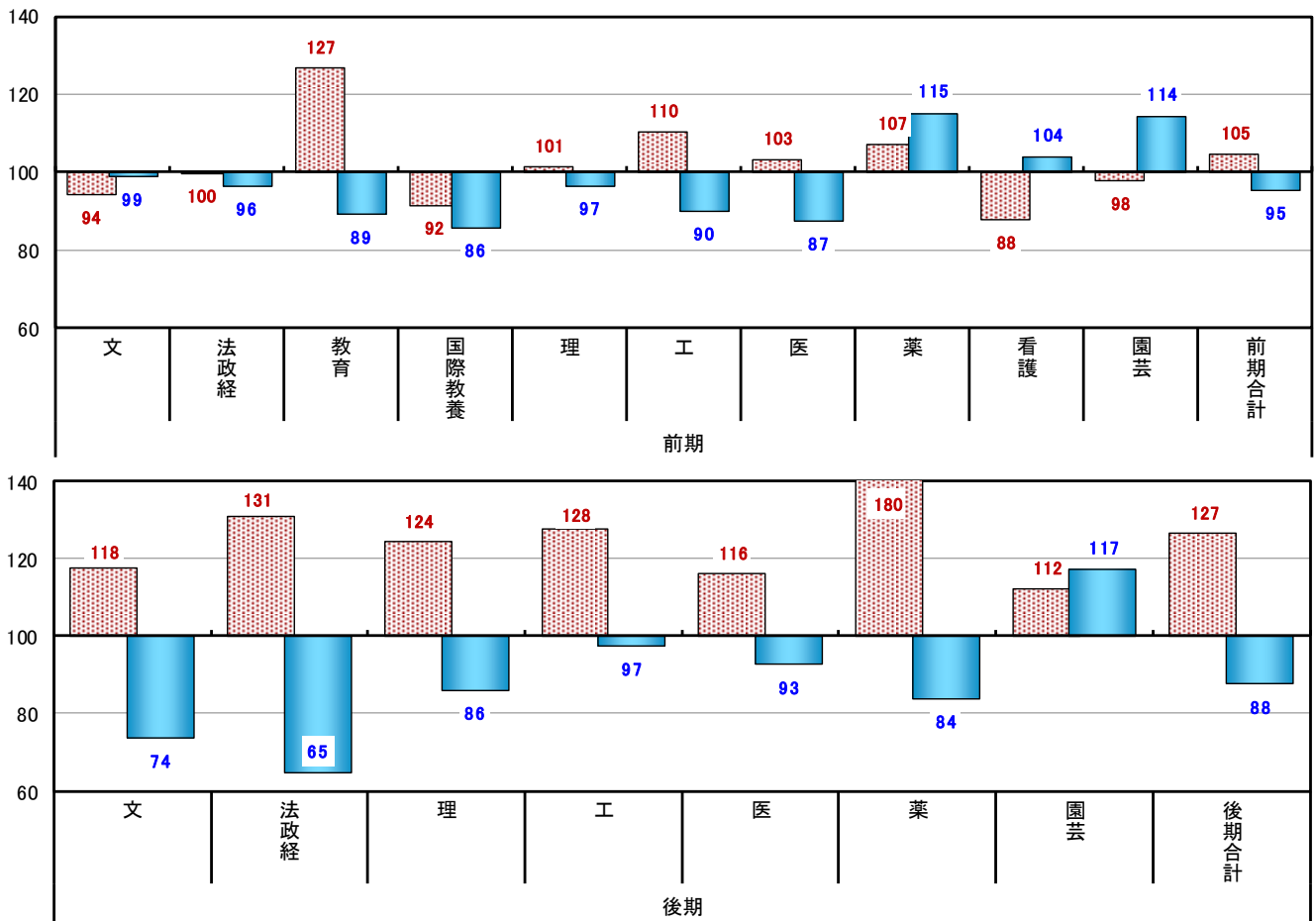


千葉大：大学全体では減少、国公立大志願者数最多が途切れた

前期：-303 人 後期：-631 人

※前年度の志願者数を100とする指数

■ 2021年度/2020年度 ■ 2022年度/2021年度



主な入試変更点

コース名称変更：工(総合工)…都市環境システム→都市工学
 募集人員：工(総合工/都市工学)…<前>37人→30人、<後>15人→12人
 (総合工/電気電子工学)…<前>55人→56人、<後>19人→20人
 (総合工/物質科学)…<前>68人→70人
 (総合工/共生応用化学)…<前>70人→72人、<後>24人→25人
 (総合工/情報工学)…<前>47人→49人、<後>19人→20人
 医(医)…<前>(一般枠)82人→82人、(千葉県地域枠)15人→20人
 <後>(一般枠)15人→15人、(千葉県地域枠)5人→0人 ※千葉県地域枠廃止
 個別試験：教育(学校教員養成/英語教育)<前>…外<400>+適性検査<200>+外ライティング<200>+(国 or 数)<200>=総点<1,000>
 →外<300>+適性検査<200>+外ライティング<200>+(国 or 数)<300>=総点<1,000>
 工(総合工/電気電子工学)<後>…数<300>+理<200>=総点<500>→数<400>+理<300>=総点<700>

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、934人(92)の減少で、国公立大の志願者数最多は6年連続で途切れた。日程別では、前期は303人(95)のやや減少で2年ぶりの減少、後期は631人(88)の減少で前年度大幅増加の反動と首都圏での併願環境の変化が影響した。

<前期日程>

- 文(99)は、微減だが2年連続減少。コース別では、増減が2コースずつに分かれた。増減が目立ったのは、(人文/行動科学)(109)は前年度減少の反動で増加、一方で(人文/国際言語文化学)(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(人文/歴史学)(87)は3年連続減少。
- 法政経(96)は、やや減少。2018年度以降900人台の志願者数が継続。
- 教育(89)は、前年度大幅増加の反動で減少。課程・コース・分野別では、14募集単位中8募集単位が減少。(学校教員養成/小学校)(94)はやや減少、(学校教員養成/養護教諭)(88)は減少だが、これを除く6募集単位はいずれも大幅減少。一方で、(学校教員養成/中学校理科教育)(156)、(学校教員養成/中学校数学科教育)(142)、(学校教員養成/中学校技術科教育)(136)は大幅増加。
- 国際教養(86)は、コロナ禍による系統への人気の低下から2年連続減少、2016年度の新設以来、学部全体の志願者数が初めて300人を下回った。
- 理(97)は、やや減少で3年ぶりの減少。学科別では、(数学・情報数理)(129)は系統への高い人気から大幅増加。他の4学科はいずれも減少で、特に(生物)(79)、(化)(84)は大幅減少。
- 工(90)は、前年度増加の反動で減少、志願者数は1,700人を下回った。コース別では、9コース中5コースが増加。特に(総合工/デザイン)(127)が大幅増加、一方で、(総合工/物質科学)(34)は2年連続大幅増加の反動で激減、(総合工/都市工

学) (72)、(総合工/共生応用化学) (80)も大幅減少。

- 医(87)は、3年連続増加の反動で減少。募集単位別では<一般枠>(78)が大幅減少、<千葉県地域枠>(161)の激増と対照的。なお、2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は<一般枠>が95.7%、<千葉県地域枠>が84.5%だった。
- 薬(115)は、大幅増加で2年連続増加。志願倍率も5.1倍→5.9倍とアップ。
- 看護(104)は、前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 園芸(114)は、2年ぶりに増加。学科別では、4学科中3学科が増加で、特に(食料資源経済)(182)が激増、(園芸)(118)も大幅増加。一方で、(応用生命化)(80)は大幅減少。

<後期日程>

- 文(74)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。募集を行う(人文/行動科学)(72)、(人文/歴史学)(77)の2学科はいずれも大幅減少。
- 法政経(65)は、3年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は16.4倍→10.6倍にダウン。前年度の横浜国立大の個別試験実施なしの影響による上位大学前期からの併願先として集中したという併願環境の変化が影響。
- 理(86)は、前年度大幅増加の反動で減少。前年度の横浜国立大の個別試験実施なしの影響による上位大学前期からの併願先として集中したという併願環境の変化が影響。学科別では5学科中3学科が大幅減少、特に(生物)(65)は30%以上の大幅減少。
- 工(97)は、前年度大幅増加の反動は小さくやや減少に留まった。なお、改組後2年目の2018年度以降前年度の反動による増減が継続。コース別では、7コース中5コースが減少。特に、(総合工/医工学)(78)が大幅減少。一方で、(総合工/電気電子工学)(142)は2年連続大幅増加。
- 医(93)は、学部全体では<千葉県地域枠>の募集廃止によりやや減少だが、募集人員の減少により志願倍率は21.7倍→26.7倍にアップ。継続募集する<一般枠>(103)のみの比較ではやや増加で、前年度大幅増加の反動はなく、志願倍率も25.9倍→26.7倍にわずかにアップ。なお、2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は64.1%だった。
- 薬(84)は、(薬科学)のみの募集だが、前年度激増の反動で大幅減少。志願倍率は24.8倍→20.8倍とダウンしたが、2年連続で20倍を上回った。
- 園芸(117)は、大幅増加で2年連続増加。学科別では、(食料資源経済)(92)のみ減少で、他の3学科はいずれも大幅増加。